

合併1周年記念うるまウィーク

PHOTO特集



▲健交食堂での地元産品を利用したメニューと食事を楽しむ多くの観客



▲会場からは多くの意見や質問が出ました



▲健康長寿のまちづくりフォーラムで質問に答える知念恒男うるま市長



▲市民芸術劇場で行われた花やから公演の一場面



▲将来の漫画家が大集合!四コマ漫画教室

うるま市の合併1周年記念事業として、5月11日の具志川ジャスコの市物産展を皮切りに5月の間、新報移動編集局「うるまウィーク」として多彩なイベントが市公共施設等を利用して開催されました。

本庁では、報道写真展、具志川じんぶん館は四コマ漫画教室、市民芸術劇場は花やから公演、地域づくりフォーラム「健康長寿のまちづくり」が行われました。

フォーラムでは、市民から健康長寿に対する要望や意見が多く出され、健康に対する感心の高さを知る良いきっかけとなりました。

また、海中道路でウィンドサーフィン大会、あやはし館では地元産品のもずく、人参、黄金芋、島らっきょうなどを使った14種類のメニューを食べてもらいたい地元産品の良さを知らせてもらおうと健交食堂をオープン。市内外から多くの方が訪れ、用意した300食分があっという間に売り切れてしまうほどの盛況ぶりでした。



▲うるま市カップウィンドサーフィン大会の様子



▲本庁ロビーには約100点の報道写真を展示



▲グスク巡り伊波城での説明の一場面

6月4日、石川会館でうるま市民踊団体連絡協議会の第1回発表会が行われました。同会は去年の5月に発足。約800名の会員の皆さんは、踊るからこそ楽しいを合言葉に老若男女誰でも踊れる「民踊」を、時には健康づくりのため、時には仲間とのコミュニケーションの手段として楽しみながら活動を続けています。

それぞれの団体が稽古を積んできた民踊を披露。女性はもちろん男性の踊り手も多く、慣れない舞台上で緊張した表情ながら、本当に楽しそうに踊っていました。

最後は舞台と会場が一つになり、全員で「うるま踊連」の唄にあわせて踊りを楽しみました。



▲石川会館で行われた誰でも踊れる『民舞』を楽しく踊る参加者ら

うるま市「どろいしんか」
すまてい・踊らな!